

令和4年度 学校関係者評価報告書

学校法人湖東学園
専門学校湖東カレッジ

1 学校関係者評価委員

種別	所属	役職
企業等委員	熊本市議会	議員
企業等委員	法律事務所	弁護士
卒業生委員	県立高等学校	教務主任
卒業生委員	IT関連企業	代表

2 学校関係者評価

基準1 教育理念・目標

評価項目		学校自己評価	学校関係者委員による評価
①	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	3.5	3.8
②	学校における職業教育の特色が明確であるか	3.3	3.8
③	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.3	3.5
④	学校の理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか	3.2	3.5
⑤	教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.3	3.5

※評価委員からの意見・指導

コロナ禍の中でも日本人および外国人留学生の受け入れ等に学校全体でよく努力をされ、学生数は維持されている。現在、ITに関する知識やスキルはますます重要になっており、今後も目的意識をもって取り組んでほしい。

基準2 学校運営

評価項目		学校自己評価	学校関係者委員による評価
①	学校運営方針を明確に把握しているか	3.1	3.8
②	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.2	3.8
③	人事、給与に関する規程等は整備されているか	3.0	3.3
④	意思決定システムを把握し、それに基づいた運営に従事しているか	2.9	3.3
⑤	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.3	3.5

⑥	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.5	3.5
---	--------------------------	-----	-----

※評価委員からの意見・指導

学校の運営は事業計画に基づいて適切に行われているが、情報システムの導入による業務の効率化やインターネットを利用した情報の公開などをさらに進めて、より円滑な運営を目指してほしい。

基準3 教育活動

評価項目		学校自己評価	学校関係者委員による評価
①	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.3	3.8
②	教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.4	4.0
③	学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.5	3.5
④	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.0	3.5
⑤	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	3.2	3.8
⑥	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.0	3.5
⑦	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.6	3.8
⑧	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.7	3.8
⑨	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3.3	3.3
⑩	教員の能力開発のための研修等が行われているか	2.9	3.5
⑪	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	2.8	3.5
⑫	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.0	3.3
⑬	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.3	3.5
⑭	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	2.8	3.5

※評価委員からの意見・指導

日々の授業運営はカリキュラムに沿って適切に行われている。産学連携やインターンシップの実施もされており、今後も関連分野とのさらなる連携を進めてほしい。

基準4 学修成果

評価項目		学校自己評価	学校関係者委員による評価
①	就職率の向上が図られているか	3.2	3.8
②	資格取得率の向上が図られているか	3.3	3.8
③	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.5	3.8
④	卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	3.0	3.3

※評価委員からの意見・指導

就職率・資格取得率ともに良好な状態である。本年度は卒業生の講演会を実施されており、卒業生の支援が現役の学生たちの手助けとなっている。同窓会などを通じて本校卒業生とのさらなる連携を進めていきたい。

基準5 学生支援

評価項目		学校自己評価	学校関係者委員による評価
①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.2	3.5
②	学生相談に関する体制は整備されているか	3.3	3.5
③	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.3	3.8
④	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.0	3.5
⑤	課外活動に対する支援体制はあるか	2.9	3.8
⑥	学生の生活環境への支援は行われているか	3.0	3.5
⑦	保護者と適切に連携しているか	3.2	3.5
⑧	卒業生への支援体制はあるか	3.0	3.5
⑨	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2.8	3.0

※評価委員からの意見・指導

学生からの相談・要望に対しては、日々コミュニケーションが取られている。出席管理が厳格になされており出席状況の変化がみられる学生にはすぐに連絡をとり、個別の状況を把握して細やかな対応がされている

基準6 教育環境

評価項目		学校自己評価	学校関係者委員による評価
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.0	3.3
②	学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	3.0	3.8
③	防災体制は整備されているか	3.3	3.8

※評価委員からの意見・指導

最新の情報機器が設置され、効果的な実習が行われている。指導者は、第一線で活躍されている技術者で、学生からの評価も高く、確かな技術力を身に付けている。インターンシップは、生徒が希望した実習先において、1週間程度の充実した研修が行われ、受け入れ企業からの評価も高い。

基準7 学生の受け入れ募集

評価項目		学校自己評価	学校関係者委員による評価
①	学生募集活動は、適正に行われているか	3.3	3.8
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.2	3.5
③	学納金は妥当のものとなっているか	3.4	3.8

※評価委員からの意見・指導

年間を通して計画的にオープンキャンパスが行われて、体験的な学習を通して、学校の魅力が伝えられている。また、留学生の母国においても、現地スタッフが丁寧に対応され、入学後のミスマッチが殆どみられていないようである。

基準8 財務

評価項目		学校自己評価	学校関係者委員による評価
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.8	3.3
④	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.0	3.3
⑤	財務について会計監査が適正に行われているか	3.5	4.5
⑤	財務情報公開の体制整備はできているか	3.5	3.5

※評価委員からの意見・指導

コロナ禍で留学生の入学者が減少したが、昨年度より回復してきている。日本人の入学者は年々増加している。財務は健全な傾向にあり、会計監査も適切に行われている。

基準9 法令等の遵守

評価項目		学校自己評価	学校関係者委員による評価
①	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がされているか	3.0	3.8
②	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.3	3.8
③	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.0	3.5
④	自己評価結果を公開しているか	3.5	3.5

※評価委員からの意見・指導

法令や基準が遵守され適切に運営されている。留学生を受け入れる中で、様々な制約条件があり、学生への支援を積極的に行っておられる。

基準 10 社会貢献・地域貢献

	評価項目	学校自己評価	学校関係者委員による評価
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.2	3.3
②	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.0	3.3
③	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	2.7	3.5

※評価委員からの意見・指導

常日頃から、地域近隣を学生・職員で清掃活動をされている。また、お仕事体験フェアなどの活動に積極的に参加され、地域の子供たちに仕事の魅力を伝え地域貢献に努めておられる。また、離職者等を対象にした長期高度人材育成コースを運営され、職業能力の習得を目指し、地域に貢献されておられる。

基準 11 国際交流

	評価項目	学校自己評価	学校関係者委員による評価
①	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4.0	3.8
②	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理などにおいて適切な手続きが取られているか	3.5	4.0
③	留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか	3.5	3.8
④	学習成果が国内外で評価される取り組みを行っているか	4.0	3.5

※評価委員からの意見・指導

留学生の日常生活に関しては、ゴミ分別の講習や火災・地震など緊急時の避難訓練を毎年継続して行っている。昨年度はウクライナからの学生受け入れなど国際的な人道支援にも積極的に貢献された。今後も国際交流をますます発展させていきたい。